

R41205 番町小 朝礼講話㊦【創立記念朝会】

【児童への話】

昨日の日曜日、12月4日は番町小学校のお誕生日、創立記念日でした。これで番町小は151歳になりました。

皆さんの通う番町小は、日本で最も古くから続く学校のひとつです。明治4年(1871年)12月4日に、「小学第二校」の名前で開校式が行われました。一番最初には子どもの数が全校で30人くらい、先生は3人だったそうです。子どもの数はだんだん増えていって、一番多くて、なんと1800人以上の子どもが在校していたときもあるそうです。すごいですね。

昨日は、今までの卒業生の方々が100名以上学校にいらしてくださり、学校のお誕生日を講堂でお祝いしました。校長先生も参加させていただきましたが、皆さん、番町小が大好きで、番町小で学んだことに誇りをもっていることがよく分かる、ステキな同窓会でした。

その同窓会での校長先生からの話の中では、今、この番町小に通っている422人の児童の皆さんが、「考える子 思いやる子 やりぬく子」になるために、一日ひとつの努力を積み重ねていることをお伝えしました。皆さん、とても喜んでいらっしゃいました。

こんなにステキな学校で学ぶ皆さんですから、これからも、友だちと仲良く、学校で穏やかに生活し、学習に自分から取り組み、自分の力をたくさんたくさん蓄えていってください。

今日はこのあと、校歌を歌って、さらに創立記念日をお祝いしましょう。

【本講話について】

「明治4年の この月この日 この学校は 初めて建ちぬ 思えば遠き 昔よな」の1番の歌詞から始まる、『創立記念日の歌』を歌ってお祝いしました。今から101年前、大正時代に作られた歌です。時代は違えど同じ世代の子どもたちが歌うことで、伝統を大切に、学校を愛する優しい心が育つのだと思います。

本校には、学校を愛し、支えてくださる愛育会や同窓会の皆さまがいらっしゃいます。これほど多くの皆様が子どもたちを応援してくださるのは、とても幸せなことです。次代を担う子どもたちを健全に育成できるよう、これからも教育活動を充実させていきます。